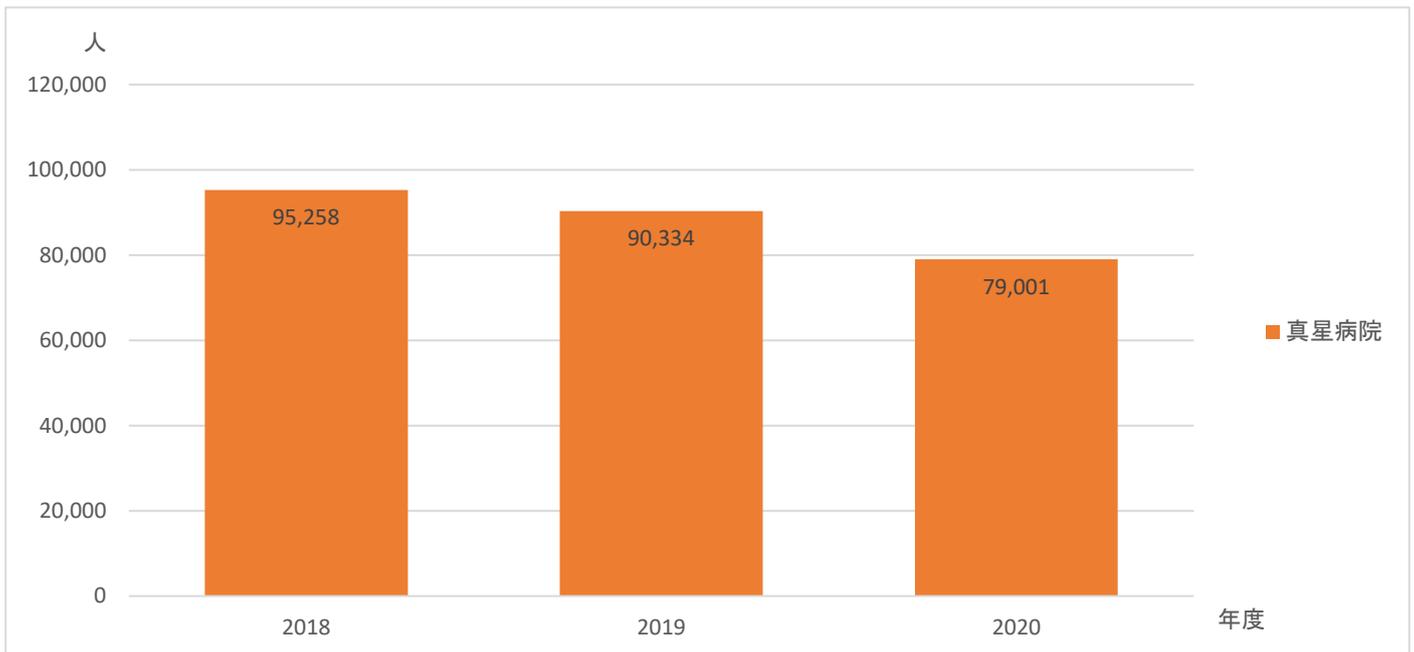


真星病院 臨床評価指標 2020

真星病院では、患者さんが安心して医療を受けられるよう、医療の過程やその結果を臨床評価指標で評価し、質向上に向けた取り組みを継続的に行っています。

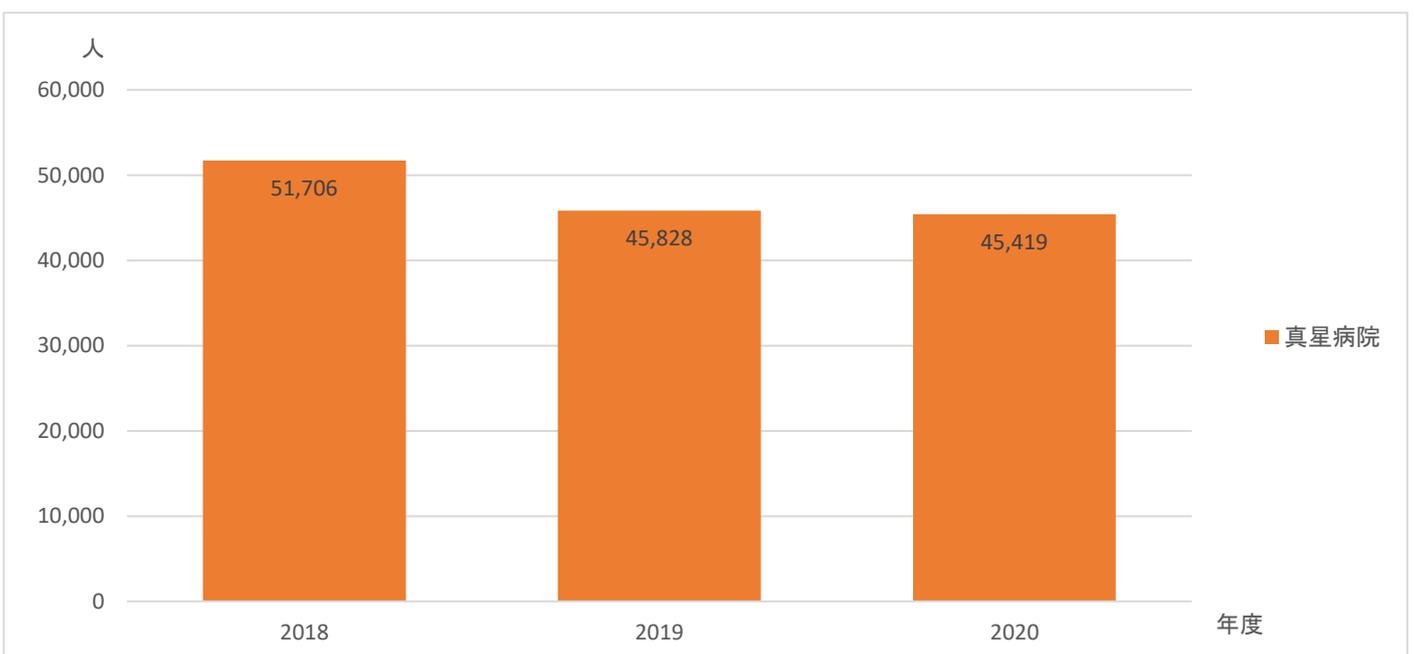
延外来患者数

解説 1年間の外来患者さんの延べ数です。外来の活動状況を示す指標です。



延入院患者数

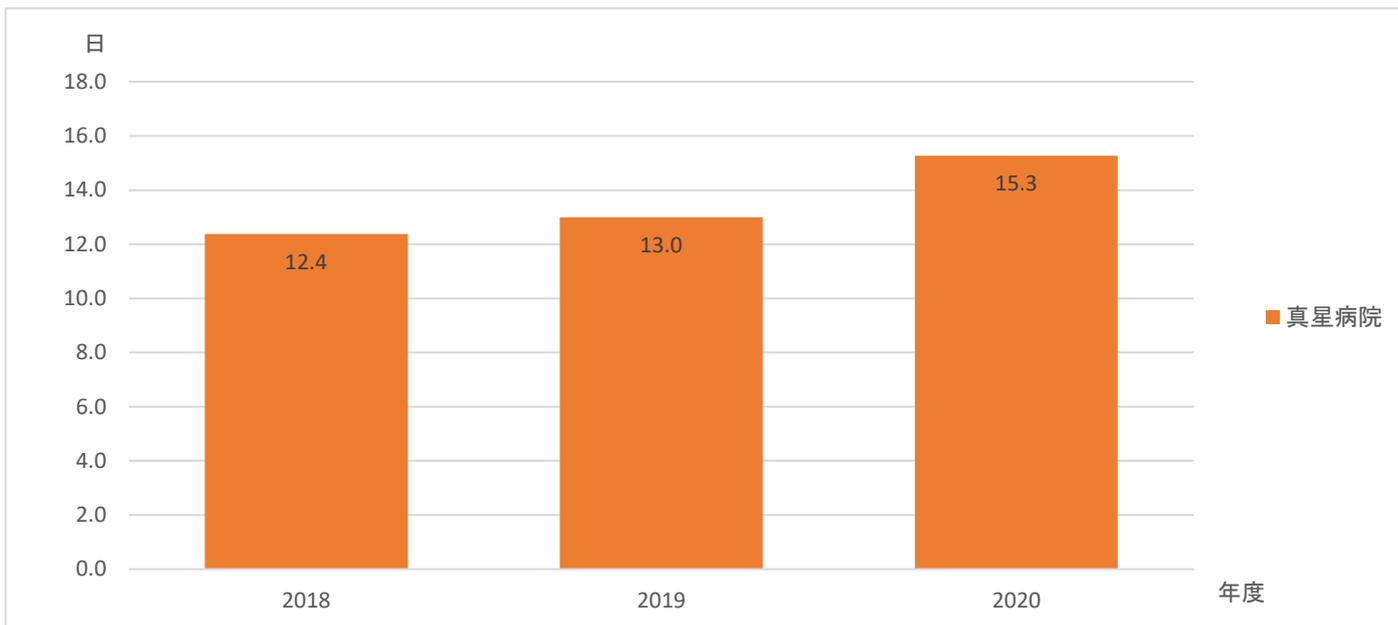
解説 1年間の入院患者さんの延べ数です。入院の活動状況を示す指標です。



平均在院日数

解説

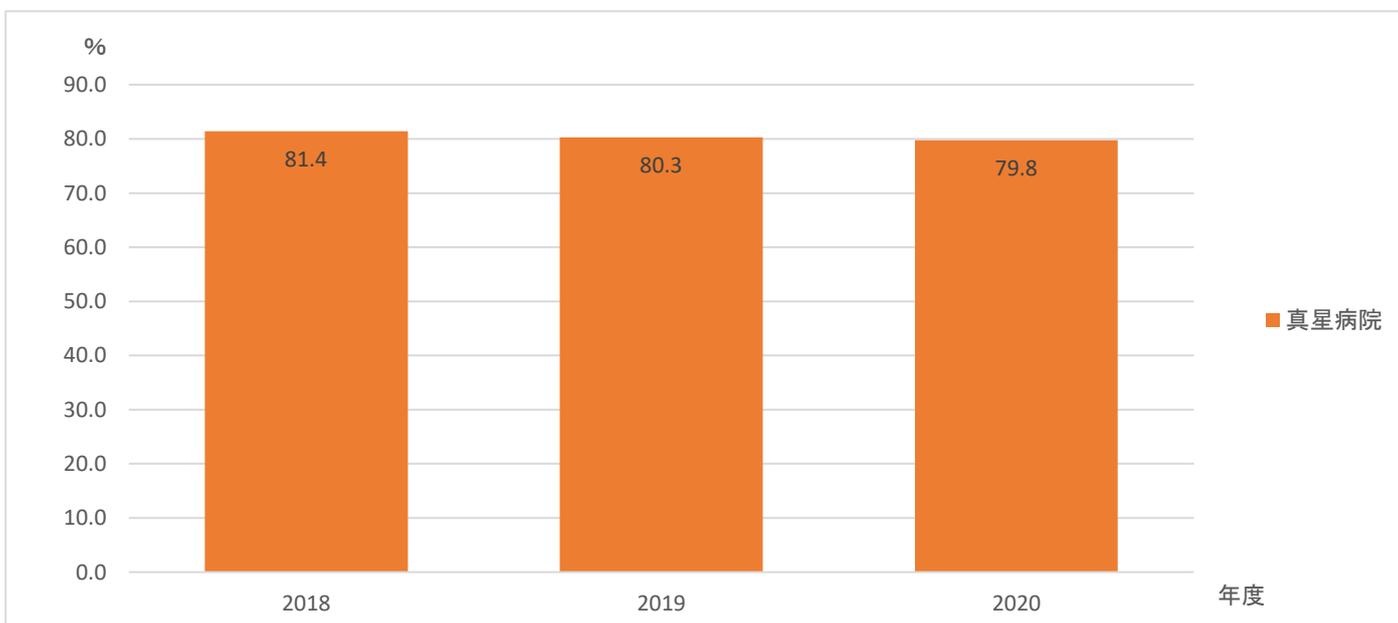
一般病棟の患者さんが、1人当たり平均何日間入院しているのかを示す指標です。当院には3種類の病棟があります。①病気やけがの症状が急激に表れ、検査や手術が必要な患者さんが入院する「一般病棟」②危機的な状態を乗り越え、合併症のリスク管理や身体機能の回復を図りながら在宅復帰を目指す「地域包括ケア病棟」③病状が比較的安定し、再発の予防や体力の維持を目指しながら長期にわたる治療を続ける「医療療養病棟」このうち②と③は入院期間が長くなるため評価の指標には向きません。①の患者さんのみで評価することにより、どのくらいの日数で危機的な状況を脱しているのかが分かります。



病床利用率

解説

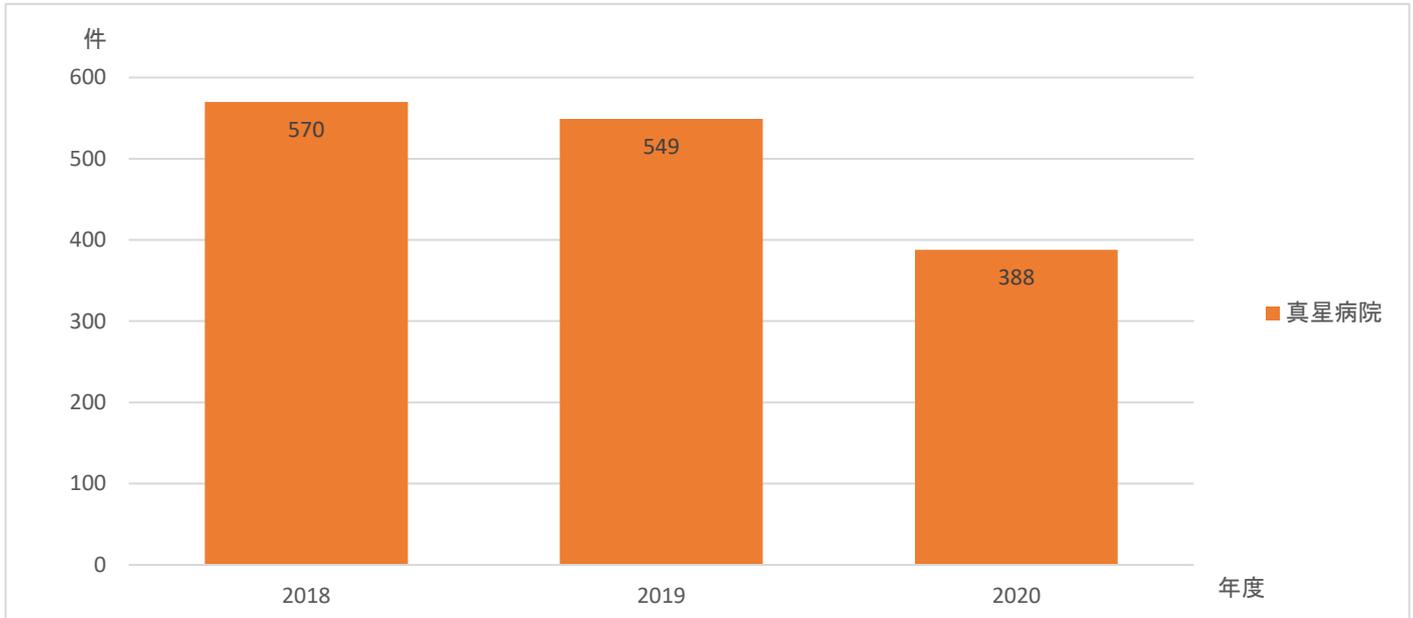
当院の入院ベッド数に対し、患者さんがどのくらいの割合で入院していたかを示す指標です。どのくらい入院ベッドを効率的に運用しているのかが分かります。



救急車受入件数

解説

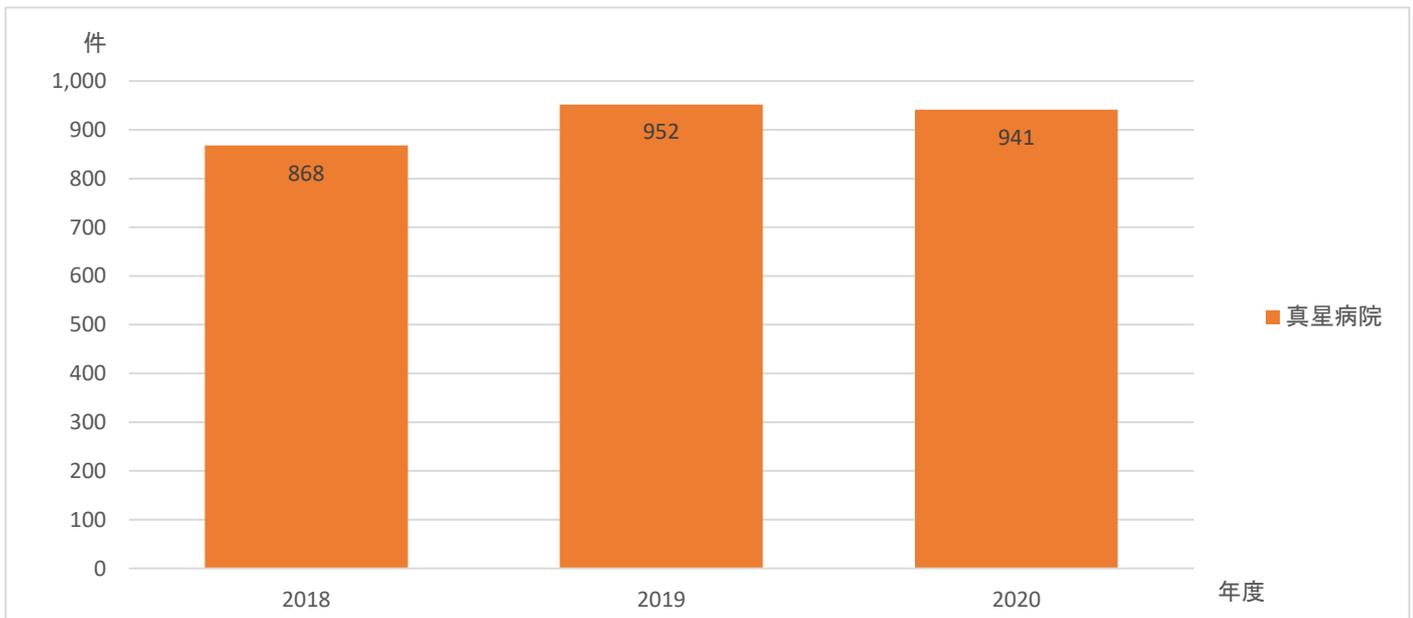
1年間でどのくらい救急車を受け入れたかを示す指標です。
地域医療に貢献するため、祝日や診察時間外であっても、積極的に救急車を受け入れるよう努めています。



手術件数

解説

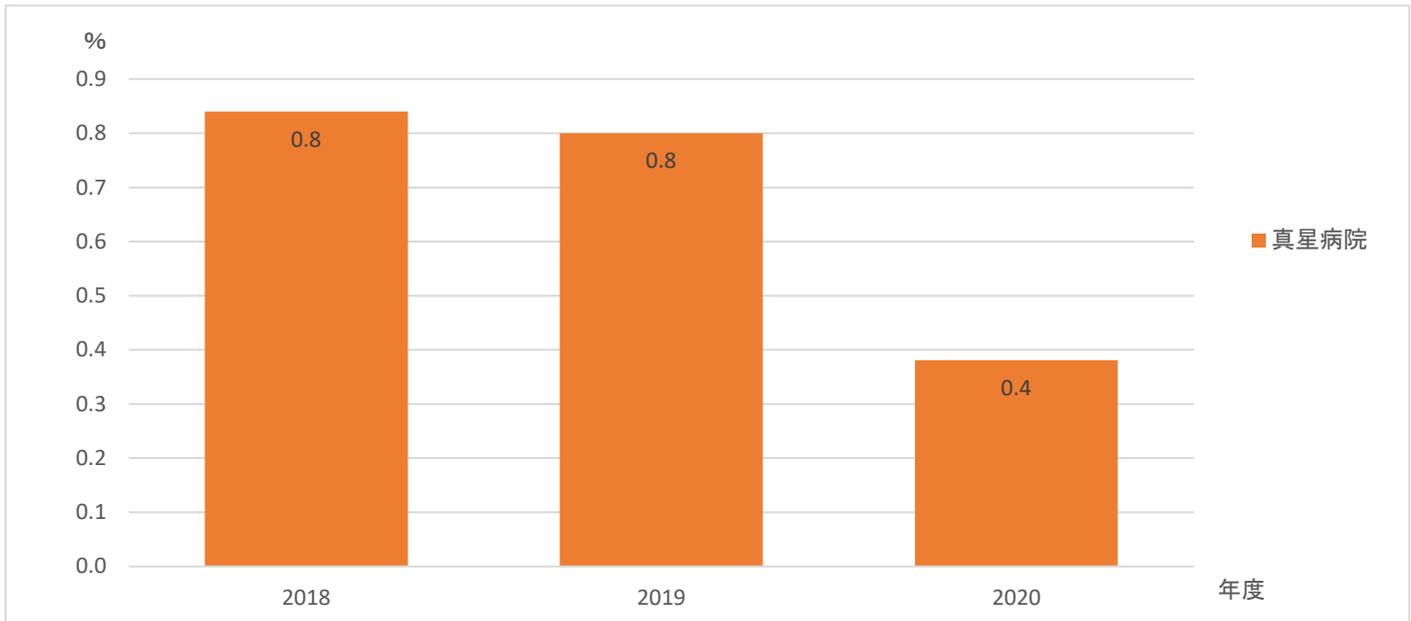
1年間の手術件数です。
診療報酬上の手術に分類される項目の件数ではなく、手術室で行った件数です。
このため、軽微な手術は含まれていません。



褥瘡発生率

解説

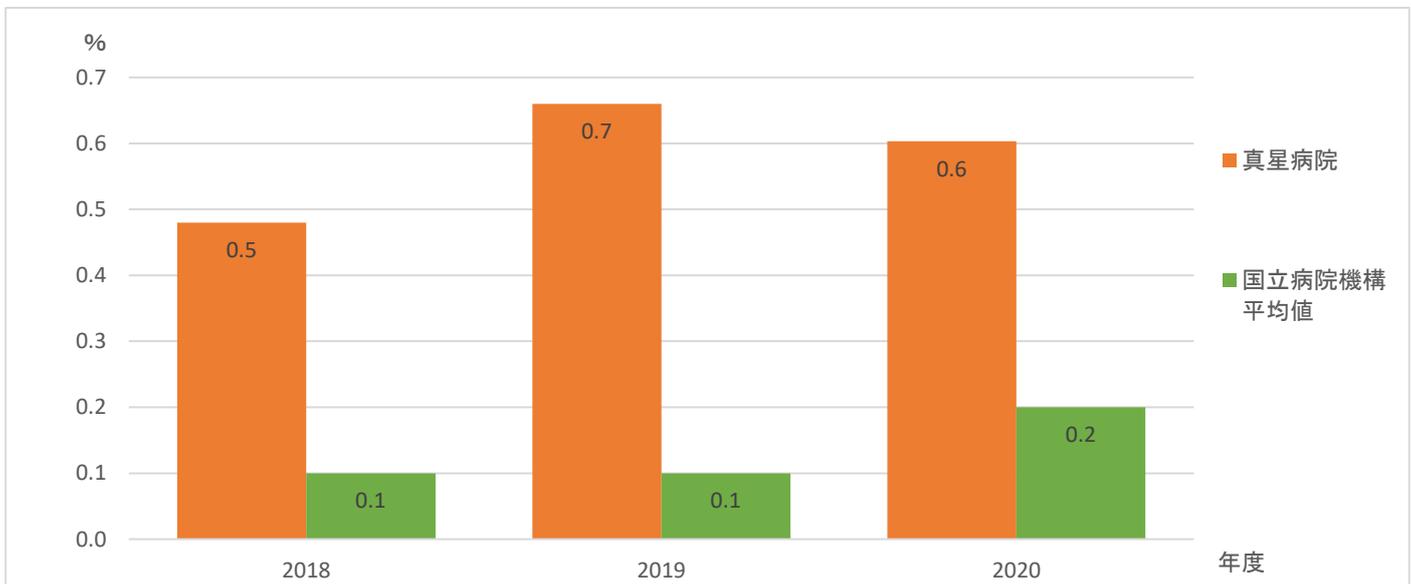
入院中に褥瘡になってしまった方の割合です。
褥瘡は、寝たきりや手術などによって長時間同じ体位におかれることにより、体重で圧迫されている場所の血流が悪くなり、壊死を起こして発生する難治性の潰瘍です。
当院では、褥瘡に関するリスク評価を行い、ハイリスクの方には褥瘡対策を実施しております。



75歳以上退院患者の入院中の予期せぬ骨折発症率

解説

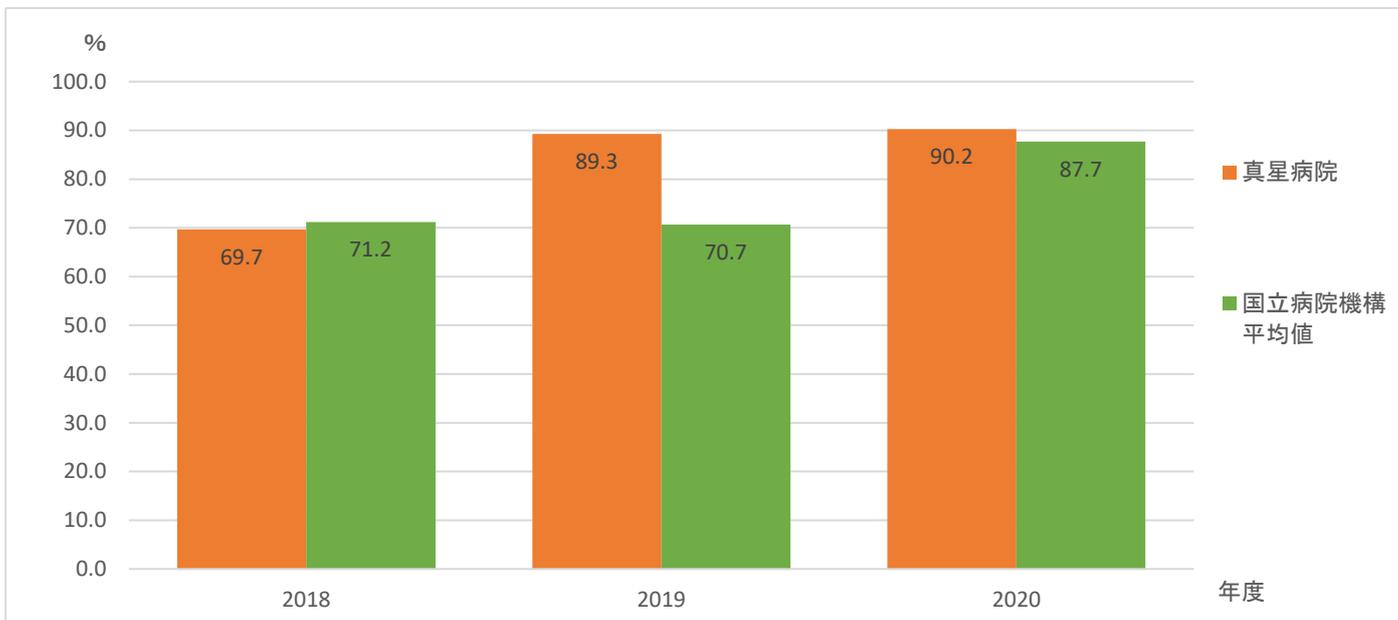
75歳以上の方で、入院中に転倒や転落により骨折された割合を示しています。
患者さんの高齢化や認知症の増加に伴い、転倒・転落を完全に防ぐことはとても難しくなっています。
しかし、防止の為に環境整備や密な観察、離床センサーの設置など、少しでも転倒・転落を防げるよう取り組んでおります。
当院の骨折発生率が国立病院機構の平均値より高くなっていますが、これは、例えば「入院されてから腰痛のうったえがあり腰椎圧迫骨折の病名が付いた。」といった場合もカウントされるため高い値になっています。



手術ありの患者の肺血栓塞栓症の予防対策の実施率

解説

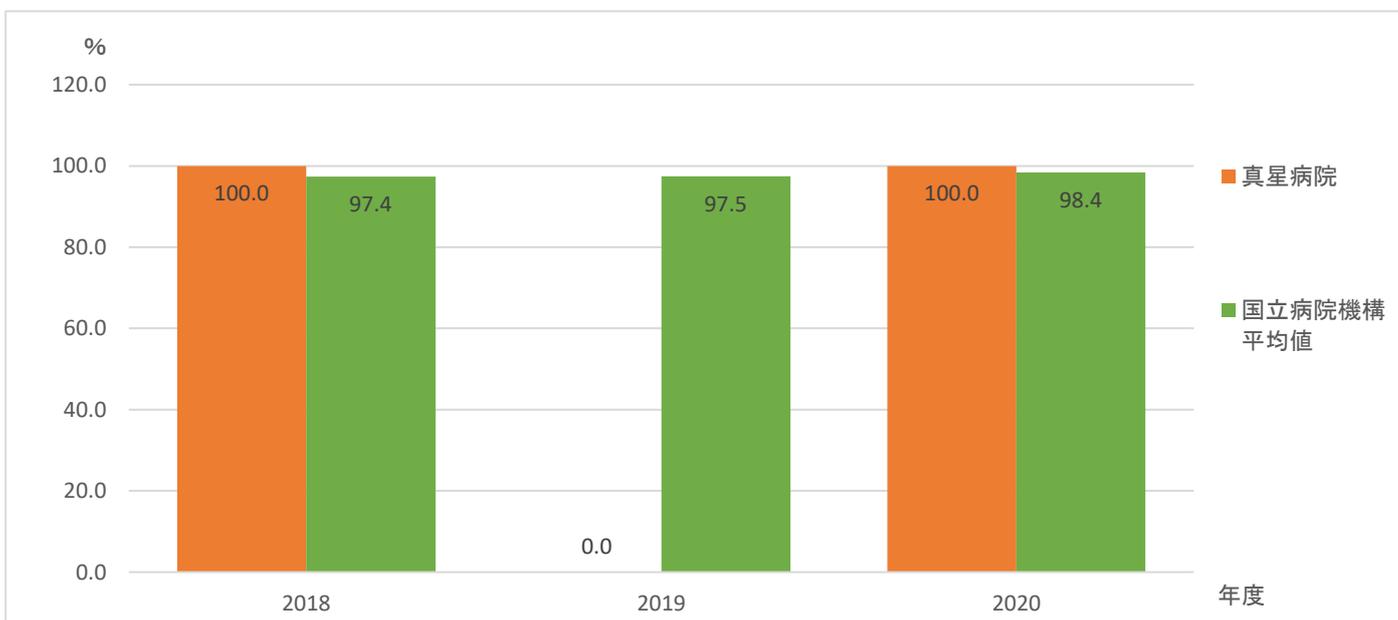
肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上*の手術をした患者さんのうち、「肺血栓塞栓症予防管理料(弾性ストッキングまたは間歇的空気圧迫装置を用いた計画的な医学管理)」が算定されている、あるいは抗凝固薬が処方された患者さんの割合です。
*リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防ガイドライン』に準じて抽出



人工膝関節全置換術後の早期リハビリテーション開始率

解説

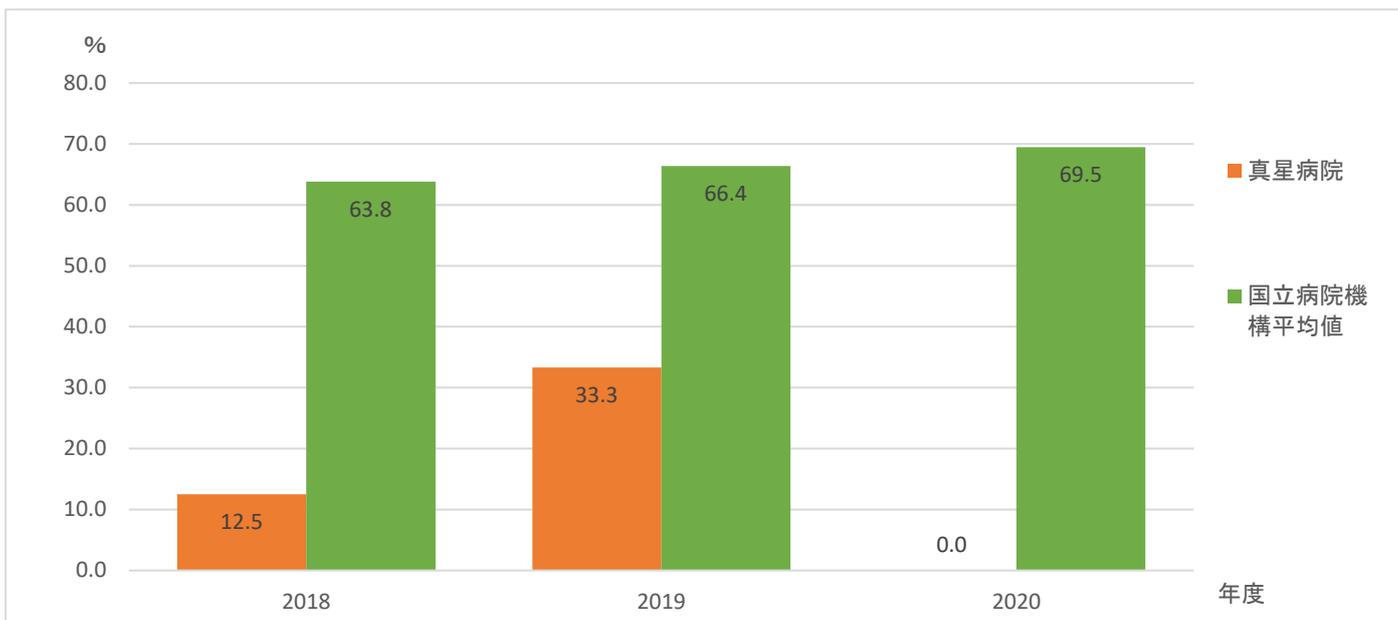
人工膝関節全置換術をされた患者さんのうち、手術から4日以内に「運動器リハビリテーション料」が算定された患者さんの割合です。
人工膝関節全置換術後の過度な安静は、身体機能の回復を遅らせる原因となるため、早期にリハビリテーションを開始することが求められます。



出血性胃・十二指腸潰瘍に対する内視鏡的治療(止血術)の施行率

解説

出血性胃・十二指腸潰瘍の患者さんのうち、内視鏡的治療(止血術)が実施された患者さんの割合です。出血性消化潰瘍に対する内視鏡的治療は、持続・再出血、緊急手術への移行の予防につながります。ただし、出血の程度や状態によっては内視鏡的治療を行わず、安静療法等で様子を見る場合もあります。



インスリン療法を行っている外来糖尿病患者に対する血糖自己測定の実施率

解説

糖尿病でインスリン療法「C101\$ 在宅自己注射指導管理料」を算定している外来患者さんのうち、外来診療で「C150\$ 血糖自己測定器加算」を算定された患者さんの割合です。血糖自己測定により、1日の血糖推移を日常生活の中で把握することができます。血糖コントロールの適正化に向け、血糖自己測定の結果に基づき、適切にインスリン療法を行っていくことが求められます。

